

令和6年度  
内部質保証に係る  
自己点検・評価報告書

令和7年4月

岐阜大学

## 1. 趣旨

大学は、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備（以下「教育研究等」という。）の状況について自ら点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することが、学校教育法第109条第1項で定められている。また、同条第3項において、文部科学大臣の認証を受けた機関による認証評価を受けることが義務づけられており、本学においては（独）大学改革支援・学位授与機構（以下「NIAD」という。）の認証評価を受審することとしている。NIADが実施する認証評価においても「大学が自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、それによってその質を自ら保証すること」とする「内部質保証に関すること」が重点評価項目となっており、内部質保証に係る体制や手順を明確に規定することが求められている。

本報告書は令和6年度に実施した自己点検・評価の結果について、本学の内部質保証体制の下で検証した結果を公表するものである。

## 2. 基本的な考え方

「岐阜大学内部質保証基本方針」に規定している「教育活動・教育課程」、「学生支援」、「学生受入」、「施設及び設備（情報）」、「施設及び設備（施設）」、「(図書)」の各領域について、毎年度、自己点検・評価を実施する。

なお、各領域についての点検項目は、大学機関別認証評価のNIADの評価基準に基づいている。

## 3. これまでの経緯

本学では、令和元年度に「岐阜大学における教育の質保証に関する要項（以下「教育の質保証要項」という。）」を策定し、「教育活動・教育課程、学生支援、学生受入（以下、「教育等」という。）」に関する内部質保証に係る自己点検・評価を教育推進・学生支援機構教学企画室において毎年度実施してきた。

一方、令和6年度に、本学の内部質保証体制の充実を図るため、新たに「岐阜大学内部質保証基本方針」及び「岐阜大学内部質保証実施要項」を策定し、施設及び設備（情報関連施設設備及び図書館を含む）の領域について、「施設及び設備の内部質保証に係る自己点検・評価及び改善・向上活動に関するガイドライン（以下「施設及び設備のガイドライン」という。）」を策定するとともに、「教育の質保証要項」にかえて「教育活動・教育課程、学生支援及び学生受入の内部質保証に係る自己点検・評価及び改善・向上活動に関するガイドライン（以下「教育等のガイドライン」という。）」を新たに策定した。

なお、令和6年度に実施した内部質保証に係る自己点検・評価については、教育等に関する自己点検・評価は従前の「教育の質保証要項」に基づいた自己点検・評価を実施し、施設及び設備（情報関連施設設備及び図書館を含む）は、新たに策定した「施設及び設備のガイドライン」に基づいた自己点検・評価を実施して

いる。令和7年度からは教育等を含む全ての領域で新たに策定した「教育等のガイドライン」並びに「施設及び設備のガイドライン」に基づいた自己点検・評価を実施することとする。

#### 4. 総括

「教育活動・教育課程」、「学生支援」、「学生受入」、「施設及び設備（情報）」、「施設及び設備（施設）」、「施設及び設備（図書）」の各領域について、自己点検・評価を実施した結果、「教育活動・教育課程」及び「学生受入」については、以下のとおり一部改善すべき点があるが、総合的に勘案し、大学として相応しい教育研究活動等の質を確保している状況にある。

##### 【改善すべき点】

##### ○「教育活動・教育課程」について

領域6の分析項目（29項目）のうち、「教育等のガイドライン」において点検項目に含まれていない分析項目（9項目）がある。

##### ○「学生受入」について

地域科学研究科の実入学者数が入学定員を大幅に下回る状況である。

自然科学技術研究科の実入学者数は入学定員を大幅に超える状況である。

連合農学研究科の実入学者数は入学定員を大幅に超える状況である。

#### 5. 自己点検・評価の検証結果

自己点検・評価の検証結果については、次ページ以降のとおり。

## 「教育活動・教育課程」

点検項目		検証結果
学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること		
	情報を収集し分析した事例はあるか	満たしている
	実施計画を立てた事例はあるか	満たしている
	改善につながった事例はあるか	満たしている
授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること		
	FD等を実施しているか	満たしている
	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながった事例があるか	満たしている
授業科目の内容及び授与する学位に相応しい水準となっていること		
	シラバスを点検したか	満たしている
	シラバスに「到達すべき目標」が箇条書きで記載されている授業科目の割合(記載率)	満たしている
	記載率が低いと判断する場合は、記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか	満たしている
成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認している。		
	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか	満たしている
	成績評価を厳格にする取組を実施しているか	満たしている
標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること		
	学部・研究科の標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか	満たしている
就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること		
	本学統一の書式または独自の書式によって就職状況を分析したか	満たしている
	分析によって進路状況等が大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか	満たしている
卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること		
	卒業(修了)時の学生から意見聴取をしているか	満たしている
	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学習成果があがっていることが確認できたか	満たしている

## 優れた点

### ○【医学部】

課外時間や休業期間を利用して行った研究活動業務に対し給与を支給する制度として「学生研究員」を導入している。学部学生が早期に研究に参画することで、研究の面白さを体験し、生命科学研究や医学研究を志す研究者を育てることを目標としており、医学部医学科1年次から申請できる。募集時期は研究室配属の履修直後となるため、相乗効果によりモチベーションの高い学生が申請しており、令和6年度は63人採用し、学生の研究活動を支援している。

### ○【連合農学研究科】

本研究科では、令和6年9月5日にフランスのリール大学と、9月8日にはリトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学(VMU)と共同指導学位プログラム(コチュテル形式のダブルディグリープログラム)を協定書に基づき締結した。コチュテルは博士候補生が2つの大学で指導を受け、それぞれの大学で共同博士号取得を目指すもので、各大学の指導教員の下、1つの博士論文を作成し、学位は両大学から授与される。リール大学との共同指導学位プログラムは生命科学を対象にしたもので、糖鎖科学で連携の深かった連合農学研究科を嚆矢として協定を締結したが、今後はさらに連携先を増やしていく。また、VMUとの共同指導学位プログラムは食品から環境までを含む農学全般を対象としており、様々な分野での交流が進むことを期待している。

## 改善すべき点

○領域6の分析項目(29項目)のうち、「教育等のガイドライン」において点検項目に含まれていない分析項目(9項目)がある。

## 「学生支援」

点検項目		検証結果
学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること		
生活支援等に関する総合的相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認する。		満たしている
健康に関する相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認する。		満たしている
就職等進路に関する相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認する。		満たしている
各種ハラスメントに関する防止のための措置（規定及び実施内容）・相談の体制の整備及び相談実績を確認する。		満たしている
各種相談・助言体制については、組織の役割、実施組織の人的規模やバランス、組織間の連携や意思決定プロセス、責任の所在等が確認できる資料・データを用いて整備状況を確認する。		満たしている
学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること		
課外活動の支援について、課外活動団体数、課外活動施設設備の整備、及び運営資金や備品貸与等の支援の状況を確認する。		満たしている
留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること		
留学生に対する生活支援の実施体制及び実施状況について確認する。		満たしている
海外から受け入れる学生に対する入学前の支援について確認する。		満たしている
卒業（修了）後の留学生の状況を把握していることを確認する。		満たしている
障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること		
障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援の実施体制及び実施状況について、関係法令の趣旨を考慮して確認する。		満たしている
対象となる学生が現在在籍していない場合でも、各大学固有の事情等に応じて生活支援を行うことのできる状況にあるかについて確認する。		満たしている
学生に対する経済面での援助を行っていること		
奨学金制度の整備状況と当該窓口の周知及び利用実績について確認する。		満たしている
入学料・授業料免除、奨学金（給付、貸与）、学生寄宿舎等、各大学固有の事情等に応じて、学生の経済面の援助が行われているかについて確認する。		満たしている

## 優れた点

○マイナビが無料で提供する適正検査 MATCH plus を、就職活動が始まる時からではなく、学部1年生から受検できる取組を実施している。これは毎年、年度当初に適性検査を受検させることにより、学部1年生から社会人基礎力を意識させ、自身のキャリア設計を考えさせる機会とし、また、学生ステータスシステム（Crescendo）に測定結果を経年で記録し、学修成果を可視化することにより、キャリアに関する目標設定・活動意欲向上への一助としている。

○保健管理センターに「障害学生支援室」を設置し、医師、臨床心理士、看護師、専任の事務員による専門的な対応ができる体制を整えている。障害学生支援室が障害学生のニーズを聴取し、学内の合理的配慮のコーディネーター業務を行い、学部と連携し、入学前相談、定期的な面談、就職支援等を行っている。ピアサポーター（SA/TA等）を必要とする学生に対する支援として、ピアサポーターが聴覚障害学生の実験のアシスト、肢体不自由学生の学内の移動や食事の補助等や、UD トークなどの音声認識ソフトを使用した講義や学外の実習等の修学も支援している。令和6年度ピアサポーターは8名である。

○本学独自の奨学金制度として、「応援奨学生制度」を実施している。これは学業を応援し、優れた人材を育成するため、現職教職員、OB・OG、一般企業等からの寄附により支援を行っている。令和6年度応援奨学生として24名の学生を支援している。令和5年度の奨学生アンケートより、奨学金のおかげで、学業に専念することができたことや、勉学に必要な教材や興味分野の書籍を購入し日々の学業に役立てることができた等、学生の満足度が分かる。

## 「学生受入」

点検項目	検証結果
学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること	満たしている
学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施していること	満たしている
学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていること	満たしている
実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	一部満たしていない

### 優れた点

○教育学部において、アドミッションポリシーの「岐阜県を中心として活躍する、優れた専門的知見と指導能力をもつ教員」を養成するという内容を具体的に実質化する取組として、令和元年度入試より岐阜県内の教育現場で活躍したいという学生を対象とした推薦入試「ぎふ清流入試（当初定員 42 名、令和 3 年度入試より定員 55 名）」を実施しており、令和元年度入学者 36 名のうち、教員就職は 28 名（公立学校 27 名（うち 4 名は講師採用）、私立学校 1 名）、令和 2 年度入学者 33 名のうち教員就職は 22 名と年々増加しており、岐阜県への地域貢献として成果を上げている。

### 改善すべき点

地域科学研究科の実入学者数が入学定員を大幅に下回る状況である。  
自然科学技術研究科の実入学者数は入学定員を大幅に超える状況である。  
連合農学研究科の実入学者数は入学定員を大幅に超える状況である。

## 「施設及び設備（情報）」

教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境を整備し、それが有効に活用されていること

情報通信におけるコミュニケーションの重要性を踏まえつつ、教職員及び学生が授業内外において簡単にインターネットに接続できる環境の整備状況を含め、大学において編成された教育課程の遂行に必要な ICT 環境の整備状況や活用状況を確認する。	満たしている
整備状況については、ICT 環境の整備充実に向けた取組に加え、これらを維持・管理するためのメンテナンスやセキュリティ管理が行われているかについて確認する。	満たしている
授業管理を支援するための統合化されたオンラインシステム等の学習支援環境の基盤の ICT 化が行われている場合は、その整備と活用の状況を含めて確認する。	満たしている

### 優れた点

○教育課程の遂行に必要な ICT 環境として、キャンパス基幹情報システムを整備している。キャンパス基幹情報システムには、主に情報教育で利用する教育端末（合計 738 台）が含まれている。教育用端末は学内の複数箇所に設置されており、講義での利用の他、自己学習においても利用できる環境が整備されている。さらに、MS 包括ライセンス契約の締結により、学生は無償で MS365 サービスを利用することができる。

○岐阜大学の LMS（AIMS）と名古屋大学の LMS（NUCT）を令和 5 年 4 月 1 日から統合し、新たな LMS である TACT の運用を開始した。これにより両大学の持つデジタルコンテンツの共有がより容易になり、両大学の学生が受講する連携開設科目等の実施が可能となった。

### 「施設及び設備（施設）」

教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

施設・設備における耐震化については、評価実施年度の耐震化率を確認する。	満たしている
耐震基準を満たしていない場合は、その理由と改善のための計画について確認する。	満たしている
施設・設備の老朽化に対する対応の状況について確認する。	満たしている
外灯や防犯カメラの設置等、各大学固有の事情等に応じて安全・防犯面への配慮がなされていることを確認する。	満たしている
施設・設備のバリアフリー化について、障害のある学生等の利用者が円滑に利用できるよう配慮がなされていることを確認する。	満たしている
その他施設・設備に法令上の要件が課されている場合は、適切な管理運営の状況を確認する。	満たしている

### 優れた点

○昨今の人件費や物価上昇による建設コストの高騰等により維持管理に係る予算が不足していることを考慮し、施設老朽状況調査により緊急性を考慮した計画を策定している。

### 「施設及び設備（図書）」

大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されていること	
図書館を中心に図書等の資料が系統的に整備され、活用できる状態になっていることを確認する。	満たしている
自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること	
自主的学習環境の整備状況（部屋数、机、パソコン等の台数等）については、その環境を必要とする学生が効果的に利用できるような状態になっていることを確認する。 ※自主的学習環境の整備等、特色ある学習環境の構築により成果が得られている場合は、その内容について確認する。	満たしている

### 優れた点

○図書館では、「学生リクエスト図書」制度を設けており、学生の学習・研究を直接的に援助している。本館・医学図書館の館内に設置した意見箱や電子メールにより随時受け付けており、入手不可能な図書以外で、教育・研究・学習に必要な図書の希望であれば原則として全て購入し、迅速に提供できる体制を整備している。学生リクエストに応じた購入図書数は、令和元年度 38 冊、2 年度 38 冊、3 年度 45 冊、4 年度 39 冊、5 年度 13 冊である。年度毎にばらつきはあるものの全学部からリクエストがあり、学生のニーズに合った幅広い分野の資料を揃えることができている。また、図書館による選書において学生リクエストに類するものを参考とするなど、学生の興味・関心のある資料の充実に役立てている。

参考資料  
教育活動・教育課程  
学生受入

令和5年度(6年度実施)各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

分析項目		検証		教育学部・教育学研究科	地域科学部・地域科学研究科	医学系研究科・医学部		工学部・工学研究科	応用生物科学部	社会システム経営学環	自然科学技術研究科	共同獣医学研究科	連合農学研究科	連合創薬医療情報研究科	全学共通教育		
番号	内容	番号	内容			医学科・医療者教育専攻・医学専攻	看護学科・看護学専攻										
2-3-1	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	検証1	情報を収集し分析した事例はあるか(C, A)? ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2-3-2		検証2	実施計画を立てた事例はあるか(P)? ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2-3-3		検証3	改善につながった事例があるか(D)? ○:ある ×:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	検証1	FD等を実施しているか? ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		検証2	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながった事例があるか? ○:事例がある -:事例がない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
5-2-2	学生の受入が適切に行われていること	検証1	入学者の基礎学力が昨年度に比較して同等あるいは向上しているか? 学部等の場合、基礎学力には教学IR室が提供する大学入学共通テストの得点率も参考にする。 (本検証は、博士後期課程及び博士課程を除く。) ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	検証に基づいて入学者選抜の変更を検討(実施も含む)している事例があるか? ○:事例がある -:事例がない	○	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5-3-1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	検証1	学部等では100%≦実入学者数/入学定員≦110%(105%)となっているか? ○:なっている ×:なっていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	研究科では70%≦実入学者数/入学定員≦130%となっているか? ○:なっている ×:なっていない	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○
6-3-2	授業科目の内容及び、授与する学位に相応しい水準となっていること	検証1	シラバスを点検したか? ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	シラバスに「到達すべき目標」が簡潔書きで記載されている授業科目の割合(記載率)は? 記載率(100%)=記載されている科目の総数/授業科目の総数	92%	100%	100%	97%	94.7%	94.1%	100%	90%	100%	100%	96%	99.8%	99.8%	
		検証3	記載率が低いと判断する場合は、記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか? ○:改善されている △:取り組んでいるが改善にはつながっていない ×:取り組んでいない -:記載率は十分に高いと判断している	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていること について、組織的に確認していること	検証1	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	成績評価を厳格にする取組を実施しているか? ○:実施している ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	学部・研究科の標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5年内卒業(修了)率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか? ○:適正な状況である ×:適正な状況ではない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-2	就職(就職希望者)に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	本学統一の書式または独自の書式によって就職状況を分析したか? ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証3	分析によって進路状況等が大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	検証1 検証2	卒業(修了)時の学生から意見聴取を行っているか? ○:行っている ×:行っていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学習成果があがっていることが確認できたか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

令和5年度(6年度実施)各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

<主な取り組み事例>

番号	内容	部局名	取り組み事例
2-3-1 2-3-2 2-3-3	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	教育学部	教員就職率は上昇傾向にあるが目標値に達していないので、各学年の特定の時期に「進路希望調査」を実施し、教員志望割合や経年変化等を分析している。その結果を関係委員会で示し、主に指導教員から教職の魅力伝達やきめ細やかな相談を行う体制としている。データの蓄積によりどの時期に教員志望率が低下しやすい傾向にあるかが明らかになってきたので、その時期に合わせて現職教員等による教職の魅力を語る場を設定することが可能となった。
		地域科学部	高等学校進路指導者担当者との懇談会をオンラインにて開催した。懇談会には県内の高等学校7校、および愛知県内の高等学校3校の進路指導者が参加した。学部の概要やカリキュラム(履修系統・国際教養プログラムなど)、就職状況について説明し、意見交換を行った。
		工学部	リフレクションペーパーを通して、各教員がそれぞれの授業において工夫・配慮・考慮などの改善に取り組んでいる。また、他の教員の取り組みの内容を自身の改善に役立てられるよう、各教員のリフレクションペーパーを教員間で共有している。
		社会システム経営学環	学生の個別面談を前学期は4月、後学期は9月に行い、ポートフォリオを用いた学修指導を実施し、それぞれの結果を教務・入試専門委員会及び教授会で報告し教員間で共有した。
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	医学部医学科	臨床実習に関するFD第1回「選択臨床実習FD」(令和5年10月2日)を開催した。参加者:76名(学外:51名、学内:25名)。学内診療科及び学外の実習先医療機関から指導医が参加し、今後の臨床実習の在り方について情報を共有し、診療現場での学生評価の方法、ポートフォリオの活用、アンプロフェッショナルな振る舞いをした学生への対応を意見交換し、選択臨床実習の授業内容や指導方法の改善を図った。
		共同獣医学研究科	①R4.5.25「研究科共通科目(生物情報解析学特論)終了後の学生からのアンケート結果について」20人、②R4.7.27「研究科共通科目(アカデミック・イングリッシュ)の改善に向けて」19人、③R5.2.22「本研究科入試における受験者のTOEFLスコアについて」16人、④R5.3.22「カリキュラムの見直しに向けたアンケート結果について」18人、「研究科共通科目(生物情報解析学特論)の改善に向けて」18人を開催した。プレゼンテーション技能を向上させる内容の授業に対する要望が大きいことが明らかとなったので、「基盤特別講義」「基盤特別演習」「スペシャリスト特別講義」「スペシャリスト特別演習」において、プレゼンテーション技能の強化を意識した内容を盛り込むこととした。
5-2-2 5-3-1	学生の受入が適切に行われていること 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	医学部医学科	令和5年度入試から後期日程の学生募集を廃止した結果、令和5年度入学者で休学、退学を申し出る事案がなくなった。
		応用生物科学部	共同獣医学科においてIRデータを分析し、入学後の学力向上に論理的思考が要因となることを把握できたので、前期日程における個別学力検査の科目を英語から数学へ変更した。
		社会システム経営学環	学校推薦型選抜Ⅱについて、獲得したい学生像に照らし合わせ、「商業・工業・農業等の実業に関する学科」の募集枠を令和8年度入試から実施する。
6-3-2	授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	地域科学部・地域科学研究科	「岐阜大学成績評価基準」「岐阜大学シラバス作成ガイドライン」等に基づきシラバスが記入されていることについて、関係委員会で確認を行い、不備のあるものについては当該教員へ加筆修正を求めた。
		応用生物科学部	年度末に全教員に対するアンケートにより「シラバス・成績評価に関する自己点検評価」を行っており、令和5年度は94.6%の教員がシラバスの記載どおりに授業を実施したと回答、一方成績評価は、ほとんどの教員(98.9%)がシラバス記載どおりに実施できたと回答した。次年度の改善計画についても学生の理解を深める具体的な工夫・改善点が多く寄せられた。
		社会システム経営学環	提出後のシラバスを教務・入試専門委員会ワーキングにおいて総点検し、学生に適切に伝えるべき内容が記載されているかどうかを確認した。特にシラバスに、ディプロマポリシーである6つの専門的能力の獲得との関連が示されていること、「到達すべき目標」が箇条書きで明記され、その項目ごとに評価の方法が示されていることを徹底して、学生に意図が伝わるように配慮した。学生に対し授業評価アンケートを実施し、その結果を教務・入試専門委員会及び教授会にて各担当教員に共有した。その上で、授業評価アンケートの内容を受けて、各授業の改善した点を教務・入試専門委員会及び教授会にて報告・共有した。
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	地域科学部	学修成果の可視化を検討した結果、卒業する4年生全員について、指導教員および卒業論文副査が「学修成果評価書」を提出し、本学部のディプロマ・ポリシーに記載された能力の項目ごとに達成度を4段階で評価した。
		社会システム経営学環	次年度シラバスの点検及びシラバス作成に関するFDIにおいて、「到達すべき目標」と成績評価の整合性の必要性を確認して、改善すべきと思われる点が修正された。
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	連合農学研究科	学生に半年ごとに中間発表を課し、指導チームおよび代議員による研究の進捗状況を確認する仕組みを構築している。
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	教育学部	卒業生の教員就職率について、学校種別、県別及び講座別に分析し、教授会において説明を行っている。進路希望調査結果を指導教員にフィードバックしきめ細やかな進路指導を行うとともに、学年全体の傾向を教授会において説明し、進路指導の方針を伝えている。
		応用生物科学部	応用生命科学課程及び生産環境科学課程の2課程は、専門性進路率が過去5年すべてで9割に達している。共同獣医学科では、小動物診療(動物病院)、産業動物臨床(農業共済など)、地方公務員、国家公務員、展示動物(動物園、水族館)、民間企業、団体職員(法人等)の区分に分け、就職先を分析している。
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	教育学部	学部生については、入学時に学修録(カリキュラムマップの時系列に沿って、自らの学習記録を定期的に振り返り、教師としての力量を自律的に身につけるための記録ファイル)を配付しており、4年間の学修の記録、レポートを積み重ねさせ、4年次の教職実践演習において自己分析させている。また、卒業時のアンケートにおいても達成度、満足度を聴取している。
		医学部医学科	医学部医学科では、卒業式当日に卒業時アンケートを実施し回答を得ている。結果については、医学教育IR室にて分析を行い、今後の医学教育の改善に利用している。

教職課程の自己点検・評価に係る点検・評価項目の点検結果

大項目NO	大項目	詳細NO	中項目	評価の観点	点検結果 (A、B、C、D)	改善計画	分析項目に係る根拠資料・データ
①	教育理念・学修目標	①-1	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況 (教育学部・教育学研究科は3つの方針(ポリシー)を含む)	・具体的かつ明確な形で設定されているか ・教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画との関係が必要に応じて意識されているか	B	・教員養成の計画を策定する。	・学生募集要項 ・3つのポリシー ・岐阜大学全学共通「教職課程」要覧 ・教員養成の目標及び目標を達成するための計画に関すること(岐阜大学HP)
		①-2	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス	・学生や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員養成指標との関係性の考慮が行われているか	B	・学生の意見の考慮のため、授業時間内にアンケートによる学生の意見を聴取できないか検討する。 ・岐阜県教育委員会訪問時の記録を作成し、意見交換の内容等記録に残す。	・部局アクションプラン ・教員採用関係事務における岐阜県教育委員会への訪問記録 ・卒業時アンケート
		①-3	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しと状況	・一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか	B	・教員養成の計画を策定する。 ・学修録の活用状況が分かるものを作成する。	・卒業時の資質・能力の評価水準表 ・進路希望調査結果 ・学修録 ・将来計画検討委員会細則等 ・卒業時アンケート
②	授業計画・教育課程の編成実施	②-1	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況	・複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか	A		・岐阜大学・名古屋大学教育学部連携教職課程運営委員会内規 ・課程認定申請書
		②-2	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況	・ICT(情報通信技術)環境(オンライン授業含む)、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	A		・模擬教室・ipad使用上の留意点
		②-3	教育課程の体系性	・法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか ・教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	A		・カリキュラムマップ ・授業時間割 ・学部便覧・履修案内等 ・岐阜大学全学共通「教職課程」要覧
		②-4	ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性	・例えば、教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が図られているか ・到達目標や学修量が適切な水準となっているか	A		・シラバス ・コアカリキュラム対応表
		②-5	CAP制の設定状況	・1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	A		・学部便覧・履修案内等 ・岐阜大学におけるGPAに応じた履修科目の登録の上限に関する申し合わせ ・岐阜大学工学部における履修科目の登録の上限に関する申し合わせ ・岐阜大学工学部規程 ・岐阜大学応用生物科学部におけるGPAに応じた履修科目の登録の上限に関する申し合わせ
		②-6	教育課程の充実・見直しの状況	・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	A		・将来計画検討委員会細則等 ・岐阜大学教育推進・学生支援機構教職課程支援センター細則 ・岐阜大学教育推進・学生支援機構教職課程支援センター運営委員会議事録・資料 ・岐阜大学工学部常置委員会細則等 ・岐阜大学応用生物科学部教員会規程

大項目NO	大項目	詳細NO	中項目	評価の観点	点検結果 (A、B、C、D)	改善計画	分析項目に係る根拠資料・データ
		②-7	個々の授業科目の到達目標の設定状況	・法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	B	・シラバスへ教職課程コアカリキュラムへの対応も記載する。	・シラバス
		②-8	シラバスの作成状況	・教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか	A		・学部便覧・履修案内等 ・シラバス
		②-9	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況	・授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	A		・シラバス ・学習支援システム（TACT、学務情報システム、Webシラバス、crescendo）（岐阜大学HP）
		②-10	個々の授業科目の見直しの状況	・学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	B	・見直し状況を検討していることが分かる会議の議事録を作成する。	・将来計画検討委員会細則等 ・リフレクションペーパー
		②-11	教職実践演習及び教育実習等の実施状況	・教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習（学校体験活動含む）は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか	A		・教育実習全体ガイダンス資料 ・教職実践演習全体ガイダンス資料 ・教職課程支援センター運営委員会資料 ・教育実習事後指導(報告会の実施資料)
③	学修成果の把握・可視化	③-1	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況	・成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	A		・岐阜大学成績評価基準 ・岐阜大学工学部・工学研究科の成績評価に関する申合せ ・学部便覧・履修案内等
		③-2	成績評価に関する共通理解の構築	・同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の標準化を図ることができているか	A		・教職トライアル成績申し合わせ ・シラバス
		③-3	教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにする他の情報の設定及び達成状況	・教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており（例えば、卒業時の教員免許状の取得状況や教職への就職状況のほか、所在する都道府県・政令指定都市教育委員会の策定する教員育成指標や「教学マネジメント指針」を参考として設定することが考えられる）、それがどの程度達成されているか ・教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか	A		・学修録 ・アクションプラン
		③-4	成績評価の状況	・各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか ・公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	B	・シラバスに成績評価の達成水準等の記載をする。	・岐阜大学成績評価基準 ・シラバス

大項目NO	大項目	詳細NO	中項目	評価の観点	点検結果 (A、B、C、D)	改善計画	分析項目に係る根拠資料・データ
④	教員組織	④-1	教員の配置の状況	・教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を従属しているか	A		・課程認定申請書類（変更届含む）
		④-2	教員の業績等	・担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況	A		・課程認定申請書類（変更届含む）
		④-3	職員の配置状況	・教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか	A		・教育実習の手引き ・事務組織の役割分担や業務分掌に関する資料
		④-4	FD・SDの実施状況	・いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか ・適切な内容（例えば教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の共有のほか、「教学マネジメント指針」（IV）を参考としつつ内容を検討することも考えられる。）が実施できているか、実際に参加が確保できているか	B	・教職課程支援センター主催でFDを行う。	・教員採用試験に係るFD資料（日程・参加者数）
		④-5	授業評価アンケートの実施状況	・個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会を活用できるように、効果的な授業アンケートの作成・実施が行えているか	B	・授業評価アンケートの実施状況が分かる会議の議事録などを提出する。	・将来計画検討委員会資料 ・授業評価アンケート ・応用生物科学部教育改善室会議 議事録
⑤	情報公表	⑤-1	学校教育法施行規則第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況	・法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行っているか	A		・グラフで見る岐阜大学・教員養成の状況の公表（岐阜大学HP） ・教員養成の状況の公表（岐阜大学HP）
		⑤-2	学修成果に関する情報公表の状況	・大学・学部・研究科等が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか	A		・自己点検評価（岐阜大学HP） ・教員養成の状況の公表（岐阜大学HP）
		⑤-3	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況	・根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	A		
⑥	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	⑥-1	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況	・教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか ・教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか	A		・ガイダンス資料 ・進路希望調査結果 ・教職サポート室パンフレット ・入学者選抜に関する要項 ・教職課程支援センター運営委員会資料
		⑥-2	学生に対する履修指導の実施状況	・必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか ・「履修カルテ」を適切に活用できているか	A		・講座別ガイダンス一覧表 ・成績不振学生の把握や指導方法に関するデータ ・学修支援チェックシート ・学修録 ・出席確認科目 ・学生面談記録
		⑥-3	学生に対する進路指導の実施状況	・学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	A		・教育実習全体事後指導での資料 ・教職サポート室パンフレット ・教職トライアル教職体験者講話案内 ・教員採用選考試験対策学習会 実施記録

大項目NO	大項目	詳細NO	中項目	評価の観点	点検結果 (A、B、C、D)	改善計画	分析項目に係る根拠資料・データ
⑦	関係機関等との連携	⑦-1	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況	・教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか	A		・清流の国ぎふ教師養成塾案内 ・教員採用関係用務における岐阜県教育委員会への訪問記録等 ・学長ブログ（岐阜大学HP） ・農業高校との連絡協議会資料
		⑦-2	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況	・教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか ・学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	A		・教育実習実習校担当教員の役割 ・教育実習の手引き ・「教育実習」実施手順マニュアル ・実習校への大学教員の訪問記録等
		⑦-3	学外の多様な人材の活用状況	・学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか	A		・教員養成実地指導講師採用計画 ・シラバス ・令和5年度非常勤講師の採用について

- 自己評価
- A：適切に実施している（実施割合目安 80%以上）
  - B：概ね実施している（実施割合目安 60%以上）
  - C：一部実施できていない（実施割合目安 60%未満）
  - D：全く実施できていない（実施割合目安 0%）

**基準 2 - 3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること**

分析項目 2 - 3 - 1 自己点検・評価の結果を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果を上げていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受審した第三者評価の結果を含む。）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2 - 3 - 1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和2年3月	医学系研究科修士課程看護学専攻において、入学定員を大幅に下回っている。	令和元年度大学機関別認証評価（大学改革支援・学位授与機構）	令和2年度看護学専攻入学試験（令和元年度実施）では、定員8名に対し、入学者は7名であり、入学定員充足率は88%であった。単年度においては、改善に向けた取組の成果が表れている。令和3年度看護学専攻入学試験（令和2年度実施）では、大学院説明会の開催など、志願者確保に向けた取り組みを実施した。その結果、定員8名に対し、入学者は8名であり、入学定員充足率は100%であった。平成29年度	医学部看護学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域5 基準5-3

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			から令和3年度までの5年間の入学定員に対する平均比率は70%であり、入学定員充足率は改善した。			
令和 2年 3月	地域科学部において、教育目的と履修の方針との関係が不明確となっており、教育課程の編成が体系性を有していない。	令和元年度 大学機関別 認証評価 (大学改革 支援・学位 授与機構)	1. 地域科学部規程の見直し 学科ごとの教育目的、授業科目及び卒業要件等が不明確であったため、令和2年4月1日付けで、次の事項に関する見直し等に伴い所要の改正を行った。なお、令和2年度入学生から適用している。 ・学科所属時期に関して明記・教養科目及び専門基礎科目、専門科目、自由選択科目の見直し ・学科別の卒業要件を明記 2. 地域科学部履修の手引きの見直し 地域科学部規程に合わせ、地域科学部履修の手引きを改訂し、学生に配付した。	地域科学部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域6 基準6-3
令和 2年 7月	コロナ禍における急速な拡がりを見せた e-learning授業について、形態や学生の受講状況等を評価・分析し、対面授業が可能になった後も、e-learningの	教学企画室 における自 己点検	令和2・3年度の e-learning の実施状況調査及び学生へのアンケート調査により、様々な形態の e-learning 授業について、分析・評価する。	教育推進・学 生支援機構教 学企画室	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準6-5

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
	有用性を確認し、活用に資する必要がある。					
令和 2年 9月	地域活性化の中核拠点として、岐阜を中心としたこの地域を知り、地域に学び、地域への関心を高め、地域づくりに貢献できる科目が必要である。	基盤教育センター企画運営会議	多様な諸科学の観点から「岐阜」を含む地域を共通のテーマとして学際的な諸問題とその解決について学ぶ科目を立ち上げる。 岐阜学科目を令和4年度から開講する。	基盤教育センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準6-5
令和 2年9 月	国立大学法人ガバナンスコード【原則4-1 法令に基づく情報公開の徹底、及びそれ以外の様々な情報の分かりやすい公表】に対する対応が必要である。	国立大学法人ガバナンスコード	補充原則4-1② 学生が享受できた教育成果を示す情報の公表に関して、毎年、卒後3年目の卒業生に対してアンケートを実施し、その結果を大学HPで公表することとした。		<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
令和 2年 12月	総務省中部管区行政評価局「急時における大学の遠隔授業の実施に関する調査」について、中部管区行政評価局長から2点の指摘事項があった。	緊急時における大学の遠隔授業の実施に関する調査の結果	1 遠隔授業における教育効果の担保等 → 令和3年度のシラバスに授業実施方法を記載する際には、オンデマンド型の遠隔授業においては、面接授業に相当する教育効果を担保するための措置（「設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導」を確保する方法及び「学生の意見の交換の機会」を確保する方法）を明記することとした。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			<p>→ 「令和3年度シラバスへの授業実施方法等の記載について（依頼）」（令和3年1月17日付）により、令和3年度シラバスにおいて、授業の実施方法（授業の実施形態・実施方法・オンデマンド型遠隔授業の場合の指導方法・オンデマンド型遠隔授業の場合の意見交換機会の確保方法）を明記することとした。</p> <p>2 学生の情報通信機器の保有状況等の把握状況等</p> <p>→ 令和3年度の履修登録時に、全学生を対象として、回答者個人が特定できる学務情報システムにて、情報通信機器の保有やインターネット環境の状況を把握するアンケートを実施した。同アンケートには、保有する情報機器のOSの仕様やカメラ・マイク機能の有無、1か月当たり使用可能な通信容量に関する設問も含まれている。</p> <p>→ 学生に推奨する機器の仕様について、学部等ごとに定めて、ホームページ等で学生に対して周知した。</p>			

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			併せて、通信容量への注意喚起についても、同様にホームページ等で学生に対して周知した。			
令和 3年 7月	第二外国語を単に語学の修得のみでなく、社会や文化について学び・理解する科目とする。	基盤教育センター企画運営会議	言語と文化科目として位置付け、社会や文化を学ぶ講義科目である「言語と文化」と、語学の修得を目指す演習科目である「第二外国語」を立ち上げる。 言語と文化科目を令和4年度より開講する。	基盤教育センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準6-5
令和 3年 7月	大学生として、大学での学習や研究活動を行う上で必要となる能力の向上や、学生生活の設計・就職活動の進め方等、キャリア支援のための科目が必要。	基盤教育センター企画運営会議	大学生として、大学での学習や研究活動を行う上で必要となる能力の向上や、学生生活の設計・就職活動の進め方等、キャリア形成を学ぶ科目を立ち上げる。 社会人リテラシー科目を令和4年度から開講する。	基盤教育センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準6-5
令和 3年 8月	入学定員に対する実入学者の割合の過去4年間の平均が、大幅に超過している(1.3倍以上の場合)、又は大幅に不足している(0.7倍未満)。	第3期中期目標期間(4年目終了時評価)に係る業務の実績に関	大幅に超過している(1.3倍以上の場合)、又は大幅に不足している(0.7倍未満)入学定員に対する実入学者の割合の過去4年間の平均について、対象組織として指摘された各研究科において、以下の対応を行った。 【医学系研究科(看護学専攻)】	医学系研究科 連合農学研究科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域5 基準5-3

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
	農学研究科	<p>する評価結果 書面調査シート_現況分析結果 (教育)</p>	<p>医学系研究科（看護学専攻）の入学定員に対する実入学者の割合の過去4年間（平成28～令和元年度）の平均比率は53%である。 大学院説明会の開催など、志願者確保に向けた取り組みを実施した。その結果、令和2年度は定員8名に対し入学者は7名、令和3年度は定員8名に対し入学者は8名となり、令和3年度の入学定員充足率は100%であった。 今後も入学定員に対する実入学者の平均比率を改善する取組を継続する。</p> <p><b>【連合農学研究科】</b> 連合農学研究科の入学定員に対する実入学者の割合の過去4年間（平成28～令和元年度）の平均比率は134%である。 令和2年度より定員適正化のための入試改革の取組を開始した。 令和6年度入試より推薦入試と一般入試を一本化し、さらに定員調整のための第3次入試を導入する。募集形態の変更であるため、告知は令和3年度に実施した。</p>			

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			一方で、国費留学生優先配置プログラムの採択やサトレプス枠の採択により、これらプログラムの実施期間においては国費留学生数が増えることになり、入学者の約2割が国費留学生となっている。そのため、定員超過はわずかな改善にとどまっている。			
令和 3年 8月	「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率が以下のとおり相当程度低い。 学士課程：90%未満 修士・博士前期課程、専門職学位課程：85%未満 博士後期課程、一貫性博士課程：70%未満 対象組織：地域科学研究科、医学系研究科、連合創薬医療情報研究科	第3期中期目標期間（4年目終了時評価）に係る業務の実績に関する評価結果 書面調査シート_現況分析結果（教育）	相当程度低い「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率について、対象組織として指摘された各研究科において、以下の対応を行った。 【地域科学研究科】 特別演習において、指導教員に修士論文の研究課題決め、準備・作成の指導に対して配慮するように改善に向けた取組を行い、その成果として退学者や留年が減少している。また、社会人入学した者には、長期履修制度を活用するよう推奨している。 【医学系研究科（看護学専攻）】 令和2～3年度の「標準修業年限×1.5」年内修了率は100%であり、令和元年以前に比べ大幅に改善した。学生の9割は社会人であり、	地域科学研究科 医学系研究科 連合創薬医療情報研究科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域6 基準6-8

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			<p>これまで仕事と研究の並進の両立が困難となる状況の者が多くみられたため、指導教員は学生が立案した研究計画に基づき研究指導計画を作成し研究の進捗状況を学生と確認し進めていること、研究の進捗に苦渋する学生には特に主指導教員、副指導教員の複数名で対応を行うなどの取組を行っている。加えて、学生間の繋がりを強化し、研究について自由に意見交換できるよう院生室を増設するなど環境整備を行った。改善に向けた取組の成果が表れ、修了率は100%となった。</p> <p>【連合創薬医療情報研究科】</p> <p>令和2～3年度の「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率は100%と改善した。主な要因として退学者の減少があり、社会人学生の負担を軽減する長期履修制度の利用促進をはじめ、主・副指導教員の指導および研究科長・教務厚生委員長・事務職員も面談等を行うなど、研究科全体として指導に取り組んだことにより改善した。</p>			

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
令和 4年 3月	前回の認証評価で課題を指摘された「研究科共通科目」については、その名称の通り修士課程を含めたすべての学生にとって必修の科目であり、履修者が50名を超える状況が続いているが、受講者を少人数のグループに分け、具体的な事例研究やその発表・交流などを取り入れた活動を行うことで授業改善を図り、受講者の満足度も高まったようである。しかし、学生のアンケートから、教職大学院以外の学生と一緒に学ぶ際、授業に対する意欲や意識に差を感じている教職大学院生もいることが伺われるので、継続的に授業改善を図っていくことが期待される。	令和3年度 教職大学院 認証評価 (教員養成 評価機構)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度から「研究科共通科目」がなくなり、教職大学院は「専攻共通9科目」となったため、研究科共通科目については対応済である。</li> <li>・専攻共通9科目の受講者数は、本専攻学生(33名程度)となった。3コースの院生は、現職教員学生とストレートマスターが混在しているが、講義テーマにあわせて、少人数のグループで交流・発表などを取り入れた活動も行い、継続的な授業改善を図っている。</li> </ul>	教職大学院	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 (            )	領域6 基準6-3

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
令和 4年 3月	課題としては、現職教員学生の人事面での配慮に関するものが上げられる。特に、学校管理職養成コースの2年次は、所属校における教頭職務インターン実習と校長から与えられる課題解決実習がメインとなるが、大学院在学中に異動することになったり、業務の軽減がなされなかったりする等で、十分な成果が上げられない例があった。学生のアンケートや聞き取りからも改善を求める意見が認められた。これらを踏まえ、すでに教育委員会との協議を行い、同一校勤務や業務負担軽減などが人事異動方針に明記されたとのことである。今後、その方針が実質的に運用されることを継続的に検証し、教育委員会等との協	令和3年度 教職大学院 認証評価 (教員養成 評価機構)	・小中学校籍の派遣教員については、各市町村教育委員会や学校が院生の2年次の研修に妨げがないよう負担軽減を配慮する動きが浸透しつつある。しかし、県立学校については小中学校籍とは違い、各学校に対して2年次の加配措置が令和5年度末においても実現されていない。令和6年4月の県教委との連絡会議の中で再度岐阜県教育委員会へ要望する。	教職大学院	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域5 基準5-2

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
	議を続けていくことが期待される。					
令和 4年 3月	1年間の上限単位数が40単位までと定められているが、実習科目や集中科目等を除いた数値としてはやや多く、それぞれの科目の学びを深めるには学生の負担が生じている可能性を感じる。学生のアンケートからも各授業の課題の量に負担を感じているような記述も見られる。現職教員学生のほとんどが2年次には所属校に戻って働きながら学ぶことを考えるとやむを得ない部分はあるが、授業改善と合わせて履修時数の検討を行う必要もあると思われる。	令和3年度 教職大学院 認証評価 (教員養成 評価機構)	・令和5年度の大学院生アンケートにおいて課題の負担に関するコメントは前期と後期ともない状態が継続している。 ・学校管理職養成コースにおいては、履修数が過剰にならないように、令和6年度ガイダンスでもひきつづき、学生の「開発実践報告」テーマに応じた選択科目の推奨例を示せるよう対応した。その結果、履修計画届における取得予定単位数は低い数値を維持している(令和6年度年間平均:25.36単位)。	教職大学院	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域6 基準6-3
令和 4年 3月	前回の認証評価において課題となった性別構成バランスについては、女性教員が1名減少して	令和3年度 教職大学院 認証評価	全学の採用方針に基づき、教職大学院においても同等の業績の場合は、女性の採用を優先的に検討している。	教職大学院	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済	領域1 基準1-2

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
	1名だけとなり、不均衡が解消されていない。今後の採用時に対応予定とのことなので、その取組みに期待する。	(教員養成 評価機構)			<input type="checkbox"/> その他 ( )	
令和 4年 6月	各部局がそれぞれの役割に基づき、保健管理センターの支援のもと、学生への学修支援、生活支援、障がいのある学生への学修支援を実施するとともに、留学生への健康管理支援等の内容についてグローバル推進機構とも情報共有を進め、計画に沿った支援を実施する必要がある。	令和3年度 計画実施状 況の点検及 び評価に 係る報告書	障害学生支援業務を保健管理センターに移管して健康保健業務や学生相談業務も合わせてワンストップ対応ができる体制を整備し、問題を抱える学生の学修支援が円滑に行えるようになった。また、合理的配慮申請の流れについて整理し各学部との共通認識のもとで合理的配慮を円滑に行えるように見直しを行うとともに、各学部においても保健管理センターやグローバル推進機構等と留学生への健康管理支援等内容の情報共有を行った。	教育推進・学 生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域4 基準4-2
令和 4年 9月	※改善・向上が必要と確認された事項は、次の資料を参照  2-3-4-02_医学教育分野別評価 評価報告書	医学教育分 野別評価結 果(日本医 学教育評価 機構)	※対応状況等は、次の資料を参照  2-3-4-03_医学教育分野別評価_年次報告書 (2023年8月)  2-3-4-04_医学教育分野別評価_年次報告書 (2024年8月)	医学部医学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域1 基準1-2 領域2 基準2-3 基準2-5 領域4 基準4-1 基準4-2 領域5 基準5-1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
						領域 6 基準 6 - 3 基準 6 - 4 基準 6 - 5 基準 6 - 6 基準 6 - 8
令和 5 年 3 月	ディプロマ・ポリシー達成度評価に関しては、学生による自己評価に加え、教員による客観的総合評価方法の確立と継続的なデータの分析が必要である、また 4 年間を通じたディプロマ・ポリシーの達成度の評価に関して積極的に卒業前にフィードバックする仕組み作りについて検討する必要がある。	令和 4 年度 看護学教育 評価	学生の自己評価によるディプロマ・ポリシーの到達度を関門ごとに調査を実施した。達成度評価は集計して、ポートフォリオとして整理し、各学年で行われるガイダンスや助言教員との面談でフィードバックするよう依頼した。	医学部看護学 科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 6 基準 6 - 5
令和 5 年 3 月	看護学科長の選考基準を定めること、その上で、具体的な学科長としての人物像について示すことについて検討する必要がある。	令和 4 年度 看護学教育 評価	令和 6 年 2 月 14 日の将来計画委員会において「医学部看護学科長候補者選考内規の一部改正(案)について」検討し、医学部看護学科長候補者選考内規について、「岐阜大学大学院医学系研究科長候補者の推薦に関する規程」に準じ、本内規の(選考基準)第 3 条に、「医学部	医学部看護学 科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 2 基準 2 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			長が定めた看護学科長に求められる資質・能力を有する者」を規定した。令和6年2月14日の教員会議で承認を得た。			
令和 5年 3月	学科全体でシラバスチェックの体制を整え、実施し、シラバスに沿った教育が実施されているかを確認するシステムの構築が必要である。	令和4年度看護学教育評価	<p>教務厚生委員会とカリキュラム委員会のダブルチェック体制の構築</p> <p>教務厚生委員会：毎年12月、全ての看護学科科目に対して、フォーマットのチェック項目に沿ってシラバスチェックを行っている。今年度は例年のシラバスチェックに加え、外部講師に対してシラバスチェックの結果をフィードバックする体制構築に取り組み、未記載項目の改善を依頼した。</p> <p>カリキュラム委員会：年度末に、教育課程展開状況確認シート科目とDPとの対応調査を行い、すべての科目において、確認した。また、看護学教育モデル・コア・カリキュラムの本学看護学科での活用状況に関する調査を令和5年10月に行い、集計結果について令和5年度1月のカリキュラム委員会で報告した。すべてのコアカリキュラムの内容が、網羅されている</p>	医学部看護学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域6 基準6-4

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			こと確認した。			
令和 5年 3月	小児看護学、老年看護学、精神看護学の3分野の教授欠員が続くことは、看護学教育課程全体の質の低下が懸念される。早急に教授配置に向けた抜本的な対策を検討し、対処する必要がある。	令和4年度看護学教育評価	看護の専門性を高める為にも、教授配置が望ましい。人員削減のため厳しい状況であるが、教授の必要性の理解を得られるために、岐阜大学教育研究院に働きかける努力を継続する。	医学部看護学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域1 基準1-2
令和 5年 6月	対面・遠隔授業のベストミックスを検討・開発し、必要に応じ、教育プログラムを新設する必要がある。	教育推進・学生支援機構内点検	令和4年から名古屋大学と共同で全学共通教育に関するアンケート（学修支援システム（TACT）やTeams等のコミュニケーションツールの利用に関する設問を含む。）を実施し、調査、分析を行っている。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域2 基準2-2
令和 5年 6月	名古屋大学との共同により、FD・SDの実施やカリキュラムの改訂など両大学で共同して行う教育の質の保証・向上に係る取組を実施する必要がある。	教育推進・学生支援機構内点検	令和4年12月20日（火）に教育推進・学生支援機構基盤教育センター第2回FD・SDとして「岐阜大学イングリッシュセンターの挑戦と実績～開設5年目を迎えて～」を開催した。名古屋大学との協同開設科目について、名古屋大学教員から紹介し、両大学の教育の質の向上につながった。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域2 基準2-5

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和5年9月	教育課程の完成年度に向けて、入学者選抜方法を含めた教育の改善を行う。	令和4年度（令和5年度実施）教育の質保証に関する要項に基づく自己点検・評価	令和8年度以降の入学者選抜に備えた入試改革ワーキンググループを設置する。 令和6年度教育課程が完成年度を迎え、獲得したい学生像を明確化して、入学者選抜方法を含めた教育の可能性について議論を行う。 令和8年度学校推薦型選抜Ⅱにおける選抜方法の変更を決定した。	社会システム経営学環	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準2-3 基準5-2
令和5年9月	大学院進学を志す研究志向の学生が少なく、大学院生の社会人が占める割合が大きい。	令和4年度（令和5年度実施）教育の質保証に関する要項に基づく自己点検・評価	令和2年度「大学院進学促進ワーキンググループ」を設置、現状の分析及び今後の対応について検討を行ってきた。 学部学生の進学を促すための方策として、研究に興味のある学生に低学年から研究室への訪問・見学を促した。 共同研究科が設立されて以来、6年制学部教育課程を卒業してただちに大学院に入学するケースは少なかったが、令和4年度に2名、令和5年度に3名が学部卒業後すぐに大学院に入学したので、この方策を継続する。	共同獣医学研究科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準5-2 基準5-3

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
令和 5年 9月	教員就職率が目標値に達していない。	令和4年度（令和5年度実施）教育の質保証に関する要項に基づく自己点検・評価	個人面接を課す推薦入試（「ぎふ清流入試」）の定員を拡充、令和4年度より前期日程にも面接を導入した。 令和4年度1年次の学生アンケートでは、推薦入試による入学者がほぼ100%の教員志望率で、入学者の教員志望率が10%以上向上し、80%を超えた。この結果は肯定的に捉えられるが、卒業時の教員就職率にどの程度影響するかの効果検証は今後行う予定である。	教育学部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準2-3 基準5-2
令和 5年 9月	数理・データサイエンス教育科目の必修化	教育推進・学生支援機構の自己点検	東海国立大学機構アカデミック・セントラルによる名古屋大学との連携を活かし、コンテンツを名古屋大学と共有、教養教育全学必修科目として開設する。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準6-5
令和 5年 9月	学修成果を可視化し、更なる学習を助長するシステムの構築が必要である。	教育推進・学生支援機構の自己点検	教育推進・学生支援機構教学DX推進センターが新たなシステムを構築し、学修成果を可視化する。 学務情報システム、TACT(LMS)と合わせ、新たに開発したcrescendo(学生ステータスシステム)により、確かな学びを支援する。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準6-5

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
令和 5年 11月	<p>学生生活実態調査について、以下の点が課題とされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査実施サイクルが6年に一度であり、学生生活の状況を的確につかむことが出来ていない。</li> <li>・実施後の調査報告書公表が翌年度になっており、学生へのフィードバックが遅い。</li> <li>・報告書の共有が教学関係の会議に留まっており、学内構成員への周知が十分でない。</li> </ul>	教育推進・学生支援機構内点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査実施サイクルを2年に一度にすることにより、学生の状況を的確に把握し、結果を諸施策の検討に活用していくこととした。</li> <li>・実施翌月に調査結果を速報版として学生向けに公表したほか、その翌月には分析結果もHPにて公表した。</li> <li>・調査・分析結果を全学の会議でも報告し、学内構成員に向けて幅広く共有した。</li> </ul>	教育推進・学生支援機構 キャリア・学生支援センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 2 - 3
令和 5年 11月	「高年次教養セミナー」等を実施・拡充する。	教育推進・学生支援機構内点検	<p>主に3～4年生を対象とし、学部を超えた学生が集い、各専門的見地を活かした議論を重ねていく「高年次教養セミナー」を前期・後期5回ずつ開講した（履修登録者数：1名ずつ）。</p> <p>高年次教養セミナーに関するポスターを作成し、全学共通教育棟に掲示するとともに、全学へ掲示を依頼した。また、教養教育 NEWS や Facebook を活用し、ポスターや授業の様子な</p>	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 6 基準 6 - 2 基準 6 - 3 基準 6 - 4

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			<p>どを掲載し広報展開を行っている。</p> <p>令和5年度の実施について、12月26日、令和5年2月6日の執行部打合せ及び令和5年1月10日、2月13日のセンター企画運営会議で検討し、部会から10名の新規講師の推薦を得た。引き続き、ポスター作成と広報活動を実施していく。</p>			
令和 6年 3月	1 使命・目的について ・共同獣医学科の目的について、Webサイトでは明確となっていないため、掲載方法を工夫するよう改善が望まれる。	岐阜大学・ 鳥取大学共 同獣医学科 の教育課程 に関する報 告書	<p>令和6～8年度において改善に向けた取組を実施し、令和9年7月に改善報告書を提出予定である。</p> <p>なお、対応済み改善事項として、令和6年度において学生募集要項に受け入れ方針を掲載済みである。</p>	岐阜大学応用 生物科学部 共同獣医学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域6 基準6-4 基準6-6
令和 6年 3月	2 教育課程について ・「内科学A・B・C」「外科学A・B・C」等の臨床系の臓器別系統科目について、モデル・コア・カリキュラムとの対応関係を、学生が理解できるように	岐阜大学・ 鳥取大学共 同獣医学科 の教育課程 に関する報 告書	<p>令和6～8年度において改善に向けた取組を実施し、令和9年7月に改善報告書を提出予定である。</p>	岐阜大学応用 生物科学部 共同獣医学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域6 基準6-4 基準6-6

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
	<p>工夫を行うよう、改善が望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の成績評価について、特定の評定に偏っている科目が散見されるため改善が望まれる。</li> <li>・参加型臨床実習の成績評価について、試験、口頭試問、レポートにとどまらず、スキル評価（実技試験）を導入し、各学生の成績差が明らかとなる評価項目とすることが求められる。</li> <li>・解剖学教育について、産業動物の数が不足しているため、改善が望まれる。</li> <li>・病理学教育について、産業動物と鳥類の数が不足し、特に産業動物の病理解剖は過去5年間行われていない。また、参加型臨床実習で病理解剖を実施しているが、前臨床教育としての病</li> </ul>					

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
	理解剖実習は、剖検の基本を教えるために最小限行う必要があり、改善が望まれる。					
令和 6年 3月	3 学生の受け入れ ・学生の受け入れ方針を含む3つの方針（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針）について、共同獣医学科のウェブサイトにも掲載し、獣医学を志望する学生に向けて積極的に情報発信するよう改善が望まれる。 ・入試要項に学生の受け入れ方針を掲載するよう改善が望まれる。	岐阜大学・鳥取大学共同獣医学科の教育課程に関する報告書	令和6～8年度において改善に向けた取組を実施し、令和9年7月に改善報告書を提出予定である。 なお、対応済み改善事項として、令和6年度において学生募集要項に受け入れ方針を掲載済みである。	岐阜大学応用生物科学部 共同獣医学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域5 基準5-1 領域6 基準6-1 基準6-2
令和 6年 6月	教育推進・学生支援機構として、学生の学習成果・教育効果を可視化するシステムを構築する必要がある。	教育推進・学生支援機構内点検	令和5年10月から学生ステータスシステム（Crescendo）の運用を開始し、学生が在学中に身につけた能力をレーダーチャートで可視化し、学生自身で容易に確認できるようにし	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	領域2 基準2-3 領域4 基準4-2

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			た。		( )	領域 6 基準 6 - 5
令和 6 年 6 月	対面・遠隔授業のベストミックスを検討・開発し、必要に応じ、教育プログラムを新設する必要がある	教育推進・学生支援機構内点検	令和 5 年度から東海国立大学機構として連携開設科目を実施し、受講生にアンケートを行った。アンケート結果を基に、集中講義の検討や遠隔授業の環境整備などに取り組んでいる。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 2 基準 2 - 2 領域 6 基準 6 - 4
令和 6 年 10 月	社会人学生の受入人数を令和 9 年度までに令和 2 年度実績 (259 名) に比べて増加させる。最終的な到達目標として掲げる数値を達成するためには、より一層の取組が必要であると判断する。掲げる数値目標の達成に向け、社会人学生の受入人数の増加に取り組んでいただきたい。	第 4 期中期目標期間における評価指標に基づく令和 5 年度実施状況に係る自己点検・評価報告書	正規生ではないが履修証明プログラムを拡充しており、令和 5 年度からは「気象データアナリスト養成プログラム」の受け入れが開始され、社会人の受け入れ数は増加している。引き続き社会人学生増加に向けた取り組みを推進する。 その他対応について検討中である。	教育推進・学生支援機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 6 基準 6 - 1 基準 6 - 5
令和 6 年 11 月	教員就職率は上昇傾向にあるが目標値に達していない。	令和 5 年度 (令和 6 年度実施) 教	各学年の特定の時期に「進路希望調査」を実施し、教員志望割合や経年変化等を分析している。その結果を関係委員会で示し、主に指導教	教育学部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済	基準 2 - 3 基準 6 - 5

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
		育の質保証に関する要項に基づく自己点検・評価	員から教職の魅力伝達やきめ細やかな相談を行う体制としている。データの蓄積によりどの時期に教員志望率が低下しやすい傾向にあるかが明らかになってきたので、その時期に合わせて現職教員等による教職の魅力を語る場を設定することが可能となった。		<input type="checkbox"/> その他 ( )	
令和 6年 11月	後期日程入試の入学者に休学・退学を申し出る学生が多い。	令和5年度（令和6年度実施）教育の質保証に関する要項に基づく自己点検・評価	後期日程募集人員を令和3年度25名、令和4年度10名、令和5年度0名と徐々に逡減した結果、令和5年度入学者で休学・退学を申し出る事案がなくなった。	医学部医学科	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準5-2
令和 6年 12月	岐阜大学における内部質保証体制の改善に伴う教育・学生支援・学生受入れの内部質保証体制の改善	内部質保証体制の見直し	岐阜大学内部質保証基本方針及び岐阜大学内部質保証実施要項を新たに制定することに伴い、岐阜大学における教育の質保証に関する要項、教育の質保証に関する自己点検・評価ガイドラインを統合し、これの所掌範囲を教育・学生支援・学生受入れに拡大する。	教学企画室 教学委員会	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準2-1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる 自己点検評 価結果等				
			新たに教育活動・教育課程，学生支援及び学生受入の内部質保証に係る自己点検・評価及び改善・向上活動に関するガイドラインを制定する。			

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載する。

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載する。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意する。

# 参考資料

## 学生支援

基準 4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

分析項目 4-2-1 学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること

【分析の手順】

- ・生活支援等に関する総合的相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認する。
  - ・健康に関する相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認する。
  - ・就職等進路に関する相談・助言体制の整備及び支援の実績を確認する。
  - ・各種ハラスメントに関する防止のための措置（規定及び実施内容）・相談の体制の整備及び相談実績を確認する。
  - ・各種相談・助言体制については、組織の役割、実施組織の人的規模やバランス、組織間の連携や意思決定プロセス、責任の所在等が確認できる資料・データを用いて整備状況を確認する。
- ・相談・助言体制等一覧（別紙様式 4-2-1）

機能	組織の名称	根拠規定	配置された 人員	支援の内容	相談の実績 (※：R6.4～10)
総合的相談	キャンパスライフヘルパー	岐阜大学キャンパスライフヘルパー要 項	約 70 人	学生における修学上又は日常生活上での 幅広い学生への相談窓口	年間 約 250 件
身体的健康に係る支援・相談	保健管理センター	岐阜大学保健管理センター規程 岐阜大学保健管理センター障害学生支 援室細則	16 人	学生の健康管理・健康増進、障害学生支援	※ 2,850 件 152 件
精神的健康に係る支援・相談	保健管理センター	岐阜大学保健管理センター規程 岐阜大学保健管理センター障害学生支 援室細則	16 人	心身の悩みに関する相談・助言及び指導、 障害学生支援	※ 1,140 件 95 件
就職・進路に係る支援・相談	就職支援室	岐阜大学職業紹介業務運営規程	6 人	本学の学生、卒業生及び修了生に対して行	1,507 件

## 別紙様式 4 - 2 - 1

岐阜大学

機能	組織の名称	根拠規定	配置された 人員	支援の内容	相談の実績 (※: R6.4~10)
				う無料の職業紹介及び就職相談の助言等 就職活動全般にわたる支援	
各種ハラスメントに係る防止	ハラスメント防止委員会	岐阜大学ハラスメント防止等に関する 規程		ハラスメント防止及び排除のための措置、 ハラスメントに起因する問題対応	
各種ハラスメントに係る相談	ハラスメント相談員	岐阜大学ハラスメント防止等に関する 規程	30 人	ハラスメント相談	15 件

## 基準 4 - 2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

分析項目 4 - 2 - 2 学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること

## 【分析の手順】

・課外活動の支援について、課外活動団体数、課外活動施設設備の整備、及び運営資金や備品貸与等の支援の状況を確認する。

※大学が組織として支援すべき部活動等の範囲については、大学の判断による。ただし、あくまでも大学の組織的活動として分析することが必要。

※課外活動団体等への支援実績を示す資料は、あくまでも大学の支援の実績であり、部等の活動実績そのものを評価するものではない。

・課外活動に係る支援状況一覧（別紙様式 4 - 2 - 2）

課外活動団体数	118 団体
---------	--------

支援の分類	内容	備考
課外活動施設設備の整備	音楽鑑賞室・大ホールの空調修繕 (R6)	
	バッティングゲージネット補修 (R2)、テニスコート人工芝の補修 (R6)	
	大学会館1階(大ホール、音楽鑑賞室)、2階(第1～第4、第6集会室)、3階(第9～12 集会室)	主として学生への貸出
	体育館、第2体育館、武道館、陸上競技場、プール、野球場、ラグビー場、サッカーコート、ラグビー場、ハンドボールコート2面、バスケットボールコート3面、バレーボールコート4面、テニスコート12 面、弓道場、馬場	
	部室及びサークル室 22 室	
運営資金	課外活動支援事業	活動実績に応じた支援資金配分
備品貸与	印刷機、テント、リヤカー、拡声器など	

**基準 4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること**

分析項目 4-2-3 留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること

## 【分析の手順】

- ・留学生に対する生活支援の内容及び実施体制について確認する。
- ・海外から受け入れる学生に対する入学前の支援について確認する。(COE)
- ・卒業(修了)後の留学生の状況を把握していることを確認する。(卒業生の進路は各部局にて調査)
- ・留学生への生活支援の内容及び実施体制(別紙様式 4-2-3)

生活支援の内容		担当する組織名称	備考
チューター制度	日本語の学習支援や生活全般の支援	各部局・研究科	
外国人留学生ハンドブックの配布	日本語が十分でない留学生に対して、必要な情報を提供	国際事業課	
健康相談	留学生に対する外国語による情報提供(健康相談等)	保健管理センター	
住環境の整備	国際交流会館の運営、民間宿舎(U-TOPIA LAND)を指定寮として確保	国際事業課	
契約関係支援	賃貸契約手続きに伴う留学生住宅総合補償・連帯保証契約	国際事業課	

## 基準 4 - 2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

分析項目 4 - 2 - 4 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること

## 【分析の手順】

- ・ 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援の実施体制及び実施状況について、関係法令の趣旨を考慮して確認する。
- ・ 対象となる学生が現在在籍していない場合でも、各大学固有の事情等に応じて生活支援を行うことのできる状況にあるかについて確認する。

※施設・設備のバリアフリー化への対応については、基準 4 - 1 において確認する。

- ・ 障害のある学生等に対する生活支援の内容及び実施体制（別紙様式 4 - 2 - 4）

生活支援の内容		担当する組織名称	備考
障害を理由とする差別の解消の推進体制の整備	関係部局等の連携、協力又は支援を得て、障害を理由とする差別の解消の推進に係る企画・立案及び実施・調整、障害者に対する合理的配慮の方策及びその実施計画に関すること等を担う。	障害者支援室	岐阜大学障害者支援室規程
障害や慢性疾患等のために修学に配慮が必要な学生の支援	「どのような支援を受けられるか」「どのような手続きをすればよいか」などの方法について一緒に考え、所属学部・研究科の教職員と連携して合理的配慮を立案し、実施に向けて支援する。	障害学生支援室	岐阜大学保健管理センター障害学生支援室細則

※実績がない場合には、必要があれば対応できる体制が整備されていることを示すこと

基準 4 - 2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること

分析項目 4 - 2 - 5 学生に対する経済面での援助を行っていること

【分析の手順】

- ・奨学金制度の整備状況と当該窓口の周知及び利用実績について確認する。
- ・入学金・授業料免除、奨学金（給付、貸与）、学生寄宿舍等、各大学固有の事情等に応じて、学生の経済面の援助が行われているかについて確認する。
- ・経済的支援の整備状況、利用実績一覧（別紙様式 4 - 2 - 5）

奨学金制度窓口の周知方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Web サイト</li> <li>・ Campus-G(学務情報システム)</li> <li>・ 掲示板</li> </ul>
--------------	--

支援の内容	担当する組織名称	根拠規定	配置された人員	支援の実績 ※実績は R6 前期 または 10 月実績	財源
大学独自の奨学金制度	学生支援課学生支援係	応援奨学生取扱要項	2 人	24 人	岐阜大学基金
		岐阜大学創立 70 周年記念アビ奨学生	2 人	12 人	
		ウエスタンデジタル奨学金	2 人	2 人	
入学金の免除	学生支援課学生支援係	岐阜大学における入学金の免除及び納付猶予に関する規程	2 人	48 人	運営費交付金
授業料の免除	学生支援課学生支援係	岐阜大学における授業料の免除及び納付猶予に関する規程	2 人	215 人	運営費交付金
寄宿舍の整備	学生支援課学生支援係	岐阜大学黒野寮細則	3 人	194 人	運営費交付金

支援の内容	担当する組織名称	根拠規定	配置された人員	支援の実績 ※実績は R6 前期 または 10 月実績	財源
					施設費交付事業費

## 基準 2-3 【重点評価項目】内部質保証が有効に機能していること

分析項目 2-3-1 自己点検・評価の結果を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果を上げていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

## 【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受審した第三者評価の結果を含む。）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

## ・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2-3-1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 2年 4月	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発出等により、対面でのメンタル相談が実施出来なくなったことに伴い、対面以外での相談の実施検討を迫られた。	センター内での検討	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う緊急事態宣言の発出等に伴い精神的な不調等を抱える学生に対応するため、オンラインによるメンタル相談を開始した。	保健管理センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4-2
令和 4年 8月	新型コロナウイルスの第7波発生時には、学生の定期テストのタイミングが重なったこともあり、感染報告や証	センター内での検討 関係課との調整	学生・教職員からの感染症報告をメール・電話から Microsoft Forms に改めたことにより、リアル	保健管理センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他	領域 4 基準 4-2

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
	<p>明書作成の依頼の電話が逼迫する状況であった。保健管理センターの通常業務に支障が出るレベルであった。</p> <p>体調不良時に本人が口頭で報告をすることは職員や学生の負担でもあった。また、濃厚接触者の特定時などには聞き取るべき情報が多く、電話聞き取りやタイムラグのあるメールのやり取りでは、情報整理が煩雑となっていた。さらに、各学部の学務係との情報共有において、どの学生が保健管理センターに報告済みであるかや、その学生の状況を確認するために、リアルタイムに学部も情報を確認することができるツールが必要であった。</p> <p>Microsoft Forms へ報告することにより、必要時には授業</p>		<p>タイムで学内の発生状況が把握できるようになり、迅速な感染対策対応とその質の向上につながった。</p>		( )	

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
	<p>や試験における合理的な配慮がなされることを周知することで、学生の報告を躊躇させることなく、感染拡大を防止する必要があった。</p> <p>罹患者の報告の簡易化により情報収集力を高めること、情報収集の統一化と迅速化、それに伴う感染拡大防止の観点から、新たな報告システムが必要だと考えた。</p>					
令和 6年 3月	<p>障害学生支援に関する業務を円滑に進めるため、定期的に学部等・研究科の事務担当と保健管理センター（障害学生支援室）との間での意見交換の場が必要である。</p>	保健管理センター運営委員会	<p>年1回、定期的に学部等・研究科の事務担当と保健管理センター（障害学生支援室）との間で意見交換の場を設けることとした。</p>	保健管理センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域4 基準4-2
令和 6年 4月	<p>一部の大学構成員の疾病管理や疾病予防だけでなく、全構成員のウェルネス向上を目指していくことが必要である。</p>	センター内での検討	<p>心身の健康に関するセルフチェック、健康情報の閲覧、相談ブースの設置による自己健康管理能力の養成を目的とするウェ</p>	保健管理センター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域4 基準4-2

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			ルネスルームを開設した。			
令和 3年 5月	低学年からのキャリア教育、 キャリア形成支援の充実が 課題とされた。	教育推進・学生支援機構内 点検	全学共通教育において、 大学生・社会人として必要 な日本語力の向上を図るこ と、先輩社会人の体験談を 通して自分のキャリア形成 などを考えさせることを目 的に、新たに、社会人リテ ラシー科目として、令和4 年度に「日本語表現Ⅰ（初 級）」（必修科目）、「先 輩社会人に学ぶ：実りある 学生生活を送るために」（ 選択科目）、令和6年度に 「日本語表現Ⅱ（中級）」 （選択科目）を開講する。	教育推進・学生支援機 構 キャリア・学生支援セ ンター	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域4 基準4-2

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載する。

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載する。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意する。

**基準 2-3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること**

分析項目 2-3-1 自己点検・評価の結果を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果を上げていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

## 【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受審した第三者評価の結果を含む。）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

## ・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2-3-1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和6年3月	アルバータ大学 EST プログラムが、最小催行人数が集まらず、2019 年以降実施に至っていない状況を改善する必要がある。	グローバル推進機構内点検	名古屋大学と連携して学生募集を行っていたものについて、最少催行人数 10 名を安定的に確保するため、令和 5 年度より他の国立大学（愛媛大学・熊本大学・静岡大学・千葉大学）とも連携することとした。また、令和 6 年度には三重大学も加わり、さらに充実・強化することができた。 (実施実績) R5 年度 13 名、R6 年度 11 名	グローバル推進機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4-2
令和7年3月	国際教育研究活動の環境基盤を整備するため、危機管理マニュアルの作成等による危機管理体制を構築する。	部局アクションプランによる自己点検及び評価	平成 30 年制定（最終改訂令和 6 年）の「危機管理基本マニュアル（学生関係）海外渡航編」を、学生だけでなく教職員も含めた内容にすることを総務課（岐阜大学）と検討中。	グローバル推進機構	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4-2

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載する。

## 別紙様式 2 - 3 - 1

岐阜大学

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載する。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意する。

# 参考資料 情報

評価項目（中項目）	評価項目（小項目）	評価指標	確認	根拠資料
教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	教育研究活動を展開する上で必要なICT環境を整備し、それが有効に活用されていること	情報通信におけるコミュニケーションの重要性を踏まえつつ、教職員及び学生が授業内外において簡単にインターネットに接続できる環境の整備状況を含め、大学において編成された教育課程の遂行に必要なICT環境の整備状況や活用状況を確認する	<p>【1-1:教職員および学生が授業内外において簡単にインターネットに接続できる環境の整備状況】 教職員ならびに学生が授業内外において簡単にインターネットに接続できる環境として、認証型のキャンパス情報ネットワークを整備している。このキャンパス情報ネットワークには、主に研究・業務での利用する有線ネットワークに加えて、無線での利用による「OpenLAN（主に学生用）」と「GuNetWiFi（主に教員用）」が整備されている。研究室に配属されていない学生は「OpenLAN」を利用することで個人の端末をインターネットに接続する環境が提供されている。</p> <p>【1-2:教育課程の遂行に必要なICT環境の整備状況】 教育課程の遂行に必要なICT環境として、キャンパス基幹情報システムを整備している。このキャンパス基幹情報システムには、主に情報教育で利用する教育端末（合計738台）が含まれている。教育用端末は学内の複数箇所に設置されており、講義での利用の他、自己学習においても利用できる環境が整備されている。 さらに、MS包括ライセンス契約の締結により、学生は無償でMS365サービスを利用することができる。</p> <p>【1-3:教育課程の遂行に必要なICT環境の活用状況】 教育用端末および「OpenLAN（主に学生用）」および「GuNetWiFi（主に教員用）」は、機構構成員全員に付与される機構アカウントによる認証をすることで利用可能となる仕組みが構築されている。また、この無線環境を利用するための無線アクセスポイントは、講義室を中心に全学に整備されている。</p>	<p>【1-1】 資料1_国立大学法人情報系センター協議会 調査書4、2 資料1_国立大学法人情報系センター協議会 調査書6、2</p> <p>【1-2】 資料1_国立大学法人情報系センター協議会 調査書2、7 資料2_学術情報基盤実態調査（D）教育への活用 資料3_教育端末設置場所について.PDF</p> <p>【1-3】 資料2_学術情報基盤実態調査（D）教育への活用 資料4_フロアSW&amp;無線AP機器一覧.PDF</p>
	整備状況についてはICT環境の整備充実に向けた取り組みに加え、これらを維持・管理するためのメンテナンスやセキュリティ管理が行われているか確認する	【2-1:ICT環境の整備充実に向けた取り組み】 ICT環境の整備充実に向けて、政策経費、概算要求への申請を含めた取り組みを実施している。 R5年9月には、教育用端末や図書システムを含むキャンパス機関情報システムを更新した（6年間のリース契約）。しかし、十分な予算が確保できていない状況が続いており、財源確保に向けた一層の努力が望まれる。（R5年度決算報告）	<p>【2-2:維持・管理するためのメンテナンス】 情報連携推進本部情報環境整備室において、キャンパス基幹情報システムおよびキャンパス情報システムの運用管理を実施している。リース契約であるキャンパス基幹情報システムは導入システムの保守業務が含まれており、買取契約であるキャンパス情報ネットワークは、年間の保守契約を別途締結し、安定運用のためのメンテナンスを実施している。</p> <p>【2-3:セキュリティ管理】 情報連携推進本部情報管理対策室において、全学のセキュリティ管理を実施している。</p>	<p>【2-1】 資料1_国立大学法人情報系センター協議会 調査書</p> <p>【2-2】 資料5_情報連携推進本部体制図 資料6_保守業者定例会議議事</p> <p>【2-3】 資料5_情報連携推進本部体制図 資料7_情報管理対策室会議事</p>
	授業管理を支援するための統合化されたオンラインシステム等の学習支援環境の基盤のICT化が行われている場合は、その整備状況と活用の状況を確認する	【3-1:オンラインシステム化された学習支援環境の整備状況】 講義に限らず学修活動全般を支援するシステムとしての「学務情報システム」、学生の課外活動などの自主活動を支援するシステムとしての「学生ステータスシステム」が整備されている。講義を中心とした学習活動を支援する機構全体で利用するLMSとして「TACT」が整備されている。 また、包括ライセンス契約に基づき利用可能な「TEMAS」による講義支援環境も整備されている。	<p>【3-2:オンラインシステム化された学習支援環境の活用状況】 TACTおよびTeamsに関しては、学務情報システム（Campus-G）と連携し、開講科目ごとのサイト（TACT）あるいはクラス（Teams）が全科目作成されている。また、これらの学習支援環境へのアクセスは、情報館Webページなどから容易にアクセスが可能となっている。</p>	<p>【3-1】 <a href="https://www.imc.gifu-u.ac.jp/">https://www.imc.gifu-u.ac.jp/</a> <a href="https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/network/system.html">https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/network/system.html</a> 資料8_Campus-Gポータル.PDF</p> <p>【3-2】 <a href="https://www.imc.gifu-u.ac.jp/">https://www.imc.gifu-u.ac.jp/</a> <a href="https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/network/system.html">https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/network/system.html</a></p>

## 基準 2 - 3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること

分析項目 2 - 3 - 1 自己点検・評価の結果を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果を上げていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

## 【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受審した第三者評価の結果を含む。）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

## ・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2 - 3 - 1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和元年 9月	教育用端末の起動に時間がかかり、講義開始までにログイン出来ない	教員および学生からの改善依頼	緊急対応 (R1.9) として、端末起動時の動作を改修。根本的には、全学情報システムの更新 (R5.9) にて対応する。	情報連携推進本部 (情報環境整備室)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4 - 1
令和2年 4月	オンライン会議時に遅延はフリーズが多発するため、業務に支障がでている。	職員からの改善依頼	事務端末で導入している VDI システムと Web 会議システムの親和性が原因のため、システムの大規模改修が必要。 緊急対応として、テレワークあるいはオンライン会議の利用に特	情報連携推進本部 (情報環境整備室)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			化した端末を導入 (R4.4) する。本格対応として、全学情報システムの更新 (R5.9) に伴って、ゼロトラスト対応のノート型端末を整備する。			
令和 3年 9月	人事労務Webサービスへのアクセスが非常に遅く、打刻できない	職員からの情報提供	認証システムの仕様 (認証経路) の問題であるため、認証システムを改修する。	情報連携推進本部 (情報環境整備室) 機構・情報連携統括本部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4 - 1
令和 4年 4月	オンライン講義などの対応として、学内無線ネットワーク環境の充実を図る	中期目標・中期計画の評価指標に基づく自己点検・評価	講義室を中心に無線 AP を整備する。	情報連携推進本部 (情報環境整備室)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4 - 1
令和 4年 9月	事務の働き方改革を推進するため、テレワーク環境や学内の事務ネットワークを整備する必要がある。	働き方改革の推進	(事務職員用 Surface Laptop の導入し、テレワーク環境を整える。事務ネットワークを整備し Web 会議に対応し、資料共有を最適化することにより、紙使用量削減も可能となる。)	情報連携推進本部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準 4 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
			ゼロトラスト型の端末整備 (R5.7)、事務端末専用無線ネットワークの構築 (R5.9)、学外からのアクセス環境を整備 (R5.9) する。			
令和 5年 1月	セキュリティ体制の強化が必要	富山大学・岐阜大学で締結している連携協定	富山大学・岐阜大学で締結している連携協定に基づき、セキュリティ対策に関する体制等の相互監査を実施する。	情報連携推進本部 (情報管理対策室)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準4-1
令和 6年 9月	法人文書を管理するためのストレージが整備されていない。	職員からの要望	現在、事務共有ストレージに法人文書ファイルを保管しているが、通常業務のために使用する領域が減少する。このため、事務共有ストレージの容量を増強する、あるいは法人文書管理用のストレージを整備するなどの対策を講じる。	情報連携推進本部 情報環境部情報システム運用課	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	基準4-1
令和 6年 11月	セキュリティ研修の受講率が、設定した目標値に到達していない (特に学生)。	富山大学・岐阜大学間の相互監査	セキュリティ研修の受講率を向上させるための対策 (システム構築、制度整備など) を講ずる。	情報連携推進本部 (情報管理対策室)	<input checked="" type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済	基準4-1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
					□ その他 ( )	

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載する。

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載する。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意する。

# 参考資料

## 施設

施設及び設備(施設)の内部質保証に係る自己点検・評価報告書

別紙様式 4 - 1 - 3

岐阜大学

基準 4 - 1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること

分析項目 4 - 1 - 3 施設・設備における安全性について、配慮していること

【分析の手順】

- ・施設・設備における耐震化については、評価実施年度の耐震化率を確認する。
- ・耐震基準を満たしていない場合は、その理由と改善のための計画について確認する。
- ・施設・設備の老朽化に対する対応の状況について確認する。
- ・外灯や防犯カメラの設置等、各大学固有の事情等に応じて安全・防犯面への配慮がなされていることを確認する。
- ・施設・設備のバリアフリー化について、障害のある学生等の利用者が円滑に利用できるよう配慮がなされていることを確認する。
- ・その他施設・設備に法令上の要件が課されている場合は、適切な管理運営の状況を確認する。
- ・施設・設備の耐震化、バリアフリー化等の整備状況（別紙様式 4 - 1 - 3）

事項	キャンパス	整備状況（※主要なキャンパスごとの耐震化率を記載）	備考(整備不十分の場合の対応状況等)
耐震化	全キャンパス	建物の耐震化率 100%	
老朽化対策	全キャンパス	老朽状況調査を行い、緊急度・優先度を踏まえた、当面3年間の中規模改修計画（緊急修繕計画）を策定し、これを反映した「インフラ長寿命化計画」の見直しを図った。 令和6年度は計画に基づき、畜産・農産製造室等の外部改修や、第2食堂等の空調設備の改修を実施予定としている。	
バリアフリー化	全キャンパス	各棟に必要なバリアフリー設備を設置している。 柳戸キャンパスにおいては、バリアフリーマップを公開して周知している。	公開アドレス： <a href="https://www1.gifu-u.ac.jp/~shien/syokuin.html">https://www1.gifu-u.ac.jp/~shien/syokuin.html</a>

## ・安全・防犯面への配慮の状況（別紙様式4-1-3）

事項	キャンパス	配慮の状況
外灯の設置	全キャンパス	構内に必要な外灯を設置し、安全・防犯面へ配慮している。
防犯カメラの設置	全キャンパス	柳戸キャンパスでは、入構ゲートの監視用として計13台、加納キャンパスでは、計16台の防犯カメラを設置しており、安全・防犯面へ配慮している。

※評価結果…令和7年1月30日第4回施設マネジメント推進室会議にて、上記内容を審議した結果、全ての事項について問題なく実施できていることを確認した。

## 基準 2-3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること

分析項目 2-3-1 自己点検・評価の結果を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果を上げていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

## 【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受審した第三者評価の結果を含む。）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

## ・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2-3-1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
平成 30年 11月	各部局等より、空調設備修繕、床タイ ル補修、トイレ手すり設置等、計 74 件 の修繕要望があった。	2019 年度施設修繕工事等計画書	要求事業に対し、カテゴリー分け を行い、事業の主たる内容により 点数化し、必要性・優先度を勘案 して採択を行う。	施設統括部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4-1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 元年 11月	各部局等より、空調設備修繕、漏水補修、照明改修等、計 67 件の修繕要望があった。	R2 年度施設修繕工事等計画書	要求事業に対し、カテゴリ分けを行い、事業の主たる内容により点数化し、必要性・優先度を勘案して採択を行う。	施設統括部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 2年 11月	各部局等より、空調設備改修、照明改修、網戸設置等、計 60 件の修繕要望があった。	R3 年度施設修繕工事等計画書	要求事業に対し、カテゴリ分けを行い、事業の主たる内容により点数化し、必要性・優先度を勘案して採択を行う。	施設統括部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 3年 11月	各部局等より、空調設備改修、トイレ改修、網戸設置等、計 44 件の修繕要望があった。	R4 年度施設修繕工事等計画書	要求事業に対し、カテゴリ分けを行い、事業の主たる内容により点数化し、必要性・優先度を勘案して採択を行う。	施設統括部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 4年 11月	各部局等より、空調設備改修、トイレ改修、網戸設置等、計 53 件の修繕要望があった。	R5 年度施設修繕工事等計画書	要求事業に対し、カテゴリ分けを行い、事業の主たる内容により点数化し、必要性・優先度を勘案して採択を行う。	施設統括部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和5年6月	施設・設備の改修について、限りある財源の中で、緊急性と有効性を考慮した計画に見直す必要がある。	令和5年度第1回施設マネジメント推進室会議資料	施設老朽状況調査の結果を踏まえ、老朽状況を見える化して、優先度を考慮した緊急修繕計画を作成し、この計画を反映した「インフラ長寿命化計画」の改定を行う。  これにより、安全安心の確保、教育研究活動の継続、施設の長寿命化を図る。	施設マネジメント推進室	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域4 基準4-1
令和5年10月	全学的取組に対応するためのスペースや、改修時の待避スペースが不足しており、固有化されたスペースから新たなスペースを確保する必要がある。	令和5年度第2回施設マネジメント推進室会議資料	スペース実態調査を行い、活用状況を把握する。  調査結果を踏まえ、各部局等からスペースを捻出し、「戦略的スペース」として全学的な取組等に活用する。	施設マネジメント推進室	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域4 基準4-1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施主体	計画の 進捗状況	関連する基準
年月	内容	根拠となる自己点検評価結果等				
令和 5年 11月	各部局等より、空調設備改修、照明改修、トイレ改修等、計 54 件の修繕要望があった。	R6 年度施設修繕工事等計画書	要求事業に対し、カテゴリ分けを行い、事業の主たる内容により点数化し、必要性・優先度を勘案して採択を行う。	施設統括部	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 (            )	領域 4 基準 4 - 1

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載する。

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載する。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意する。

# 参考資料

## 図書

**基準 4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること**

分析項目 4-1-6 自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること

**【分析の手順】**

- ・自主的学習環境の整備状況（部屋数、机、パソコン等の台数等）については、その環境を必要とする学生が効果的に利用できるような状態になっていることを確認する。

※自主的学習環境の整備等、特色ある学習環境の構築により成果が得られている場合は、その内容について確認する。

- ・自主的学習環境整備状況一覧（別紙様式 4-1-6）

名称	キャンパス・棟	席数	主な設備	利用時間
視聴覚コーナー	図書館	4 席	ビデオ、DVD、CD、カセットテープ、ブルーレイ、無線 LAN	図書館の開館時間に準ずる
教育用パソコン	図書館	37 席	教育用パソコン 35 台、マイクロフィルムリーダー、無線 LAN、有線 LAN: 1 席	図書館の開館時間に準ずる
閲覧席	図書館	360 席	無線 LAN、OPAC 用パソコン 5 台	図書館の開館時間に準ずる
ラーニングcommons A、B、C	図書館	135 席	無線 LAN、プロジェクター、スクリーン、ホワイトボード、デジタルホワイトボード、デジタル資料送信サービス用パソコン 1 台	図書館の開館時間に準ずる
プレゼンルーム	図書館	9 席	無線 LAN、プロジェクター、スクリーン	図書館の開館時間に準ずる

名称	キャンパス・棟	席数	主な設備	利用時間
グループ学習室 A、B	医学図書館	18 席	視聴覚機材、ディスプレイ、無線 LAN、 ホワイトボード、デジタルホワイト ボード	医学図書館の開館時間に準ずる
研究個室 A	医学図書館	1 席	有線 LAN	医学図書館の開館時間に準ずる
閲覧席	医学図書館	150 席	無線 LAN、OPAC 用パソコン 3 台	医学図書館の開館時間に準ずる
教育用パソコン	医学図書館	10 席	教育用パソコン 10 台	医学図書館の開館時間に準ずる
視聴覚コーナー	医学図書館	4 席	ビデオ、DVD、CD	医学図書館の開館時間に準ずる

1-2 施設（附属図書館）調査票

共通調査票

調査年度(西暦) 2023

大学等名 岐阜大学 大学等コード 0252

行 番 号	図書館等コード (*)	図書館・室名	中央図書館数	分館数	部局図書館 ・室数	調査年度 大学総経費 (千円)	施設		運営体制			蔵書状態				資料受入状態				活動(利用)状況						
							延床面積 (㎡)	閲覧座席数	専任職員数	臨時職員数	図書冊数		学術雑誌タイトル数		視聴覚 資料点数	電子ジャーナル 契約数	図書受入冊数		学術雑誌受入タイトル数		年間 開館総日数	一般公開 有無	貸出冊数			
											和	洋	和	洋			和	洋	和	洋			学内(学生)	学外		
1	350	図書館	1	1	0	50,128,461	7,125	545	9	8	11	527,520	215,680	9,814	3,882	2,619	7,763	2,419	78	920	27	274	1:有り	34,046	619	
2	360	医学図書館	1				2,032	150	1	1	5	82,214	86,423	1,527	1,803	773		399	9	314	30	283	1:有り	3,828	6	
3																										
4																										
5																										
6																										
7																										
8																										
9																										
10																										
11																										
12																										
13																										
14																										
15																										
16																										
17																										
18																										
19																										
20																										
21																										
22																										
23																										
24																										
25																										
26																										
27																										
28																										
29																										
30																										
31																										
32																										
33																										
34																										
35																										

\*1「図書館等コード」組織登録票に登録した組織の中で、組織区分を「附属図書館」及びその「分館」として登録した施設について、その大学等で付番したコード。  
 なお、学部・研究科等の図書室については、組織登録票に記載してある学部・研究科等名による記入とする。  
 組織登録の第3階層に登録した分館等組織については、本館コード(3桁)＋分館コード(3桁)の計6桁で記入する。

【項目定義】	【基準日】	【データ書式】
図書館等コード	5月1日現在	
図書館・室名		
中央図書館数		
分館数	5月1日現在	半角数字:5桁
部局図書館・室数		半角数字:3桁
調査年度大学総経費	調査年度実績	半角数字:12桁
延床面積	5月1日現在	半角数字(m <sup>2</sup> ):6桁
閲覧座席数		半角数字:5桁
区分別職員数(専任・臨時)		半角数字(人数):5桁
区分別図書資格者数(専任)	調査年度末現在	半角数字:7桁
区分別図書冊数(和・洋)		
区分別学術雑誌タイトル数(和・洋)		
視聴覚資料点数		
電子ジャーナル契約数		
区分別図書受入冊数(和・洋)	調査年度実績	
区分別学術雑誌受入タイトル数(和・洋)	調査年度実績	半角数字:3桁
年間開館総日数		有無:リスト
一般公開有無		半角数字:7桁
区分別貸出冊数(学内(学生)・学外)		

## 基準 2 - 3 【重点評価項目】内部質保証が有効に機能していること

分析項目 2 - 3 - 1 自己点検・評価の結果を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果を上げていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること

## 【分析の手順】

・機関別内部質保証体制において決定された対応措置（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価を基に受審した第三者評価の結果を含む。）の実施計画のすべてについて、成果、進捗、検討状況を確認する。

※確認された事項及び計画された取組については、各基準と関連付ける。

・計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2 - 3 - 1）

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施 主体	計画の 進捗状況	関連する 基準
年月	内容	根拠となる自己 点検評価結果等				
令和元 年 1 2 月	東海国立大学機構発足に伴い、機構として電子ジャーナル出版社と交渉することにより、より有利な条件での契約や研究環境の改善が期待された。	法人統合に伴う課題	一部出版社との間で機構一括契約を締結し、両大学とも閲覧可能な電子ジャーナル・電子ブックタイトルが増加した（令和 3 年 1 月）。	図書館（学術情報課）	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 2 年 4 月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため来館型の図書館サービスが制限される中で、刻々と変化する国・自治体・大学の指針に対応する柔軟な図書館サービスの実施が必要となった。	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) における岐阜大学の活動指針【R2～R4 年度に大	1. 学内者に対して、非来館型のサービスを拡充した。 ・ 図書の郵送貸出を実施した。 ・ 館内資料を職員が複写して学内便で送付した。 ・ 遠隔利用可能な電子ジャーナル・データベースを拡充した。 ・ 契約の有無にかかわらず利用できる電子リソースを Web サイトで周知した。	図書館（学術情報課）	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施 主体	計画の 進捗状況	関連する 基準
年月	内容	根拠となる自己 点検評価結果等				
		学 HP に掲載され、 随時更新]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子ブックの試読サービスを実施した。</li> <li>2. 来館型サービスを安全に実施するための各種対応を行った。</li> <li>・館内の消毒と換気を徹底した。</li> <li>・消毒液・非接触体温計を設置した。</li> <li>・掲示物等により利用者に注意喚起を行った。</li> </ul>			
令和 2 年 4 月	東海国立大学機構発足に伴い、機構下の 大学図書館が、機構の全構成員に対して 等しくサービスを提供することが期待 された。	法人統合に伴う課 題	名古屋大学附属図書館と岐阜大学図書館が連携し、互いの利用者に対 して自館利用者と同等のサービスを提供することとした（一部制限あ り）。  ・図書館への入館および資料の閲覧・複写・貸出  ・施設の利用  ・図書館内で開催される講習会への参加	図書館(学術情 報課)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 3 年 2 月	本学における APC 等論文掲載料の支出 額を把握することが必要となった。	国の学術情報流通 に関する施策への 対応（「我が国の学 術情報流通におけ る課題への対応に ついて（審議のま とめ）」）	各教員が財務会計（発生源）システムに情報を入力して図書館が集計す る仕組みを整備することにより、論文掲載料支出額の把握が可能とな った(令和 3 年 9 月より実施)。	図書館(学術情 報課)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 4 年 4 月	電子ジャーナル経費の高騰への対応と して、転換契約(Read & Publish 契約) 導入の検討が必要となった。	令和 4 年度第 1 回 岐大名大両館長等 ミーティング	東海国立大学機構が契約する Wiley 社及び SpringerNature 社の電子ジ ャーナル契約において、令和 6~7 年の転換契約を試行した。 また、岐阜大学が契約する Elsevier 社電子ジャーナル契約においても、	図書館(学術情 報課)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済	領域 4 基準 4 - 1

改善・向上が必要と確認された事項			対応計画	計画の実施 主体	計画の 進捗状況	関連する 基準
年月	内容	根拠となる自己 点検評価結果等				
		(R4.4.27)	令和 6～8 年度の転換契約を導入した。		<input type="checkbox"/> その他 ( )	
令和 5 年 1 2 月	法人統合を機に策定した「東海国立大学 機構 図書館グランドデザイン 2021」に ついて、令和 5 年 1 月に国の審議会で示 された「デジタル・ライブラリー」推進 の考え方を踏まえ、更新することとなっ た。	第 229 回図書館委 員会 (R5.12.5)	名古屋大学・岐阜大学の両図書館委員会の連携の下、図書館の新グラン ドデザイン検討ワーキンググループを設置し、検討を進める。	図書館(学術情 報課)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 6 年 4 月	文部科学省「人工知能等社会実装研究拠 点事業費補助金(オープンアクセス加速 化事業)」に、東海国立大学機構として 公募申請し即時 0A 義務化に向けて準備 を進めることとなった。	第 105 回岐阜大学 運 営 会 議 (R6.4.22)	R6 年 7 月に採択され、以下の事業を実施中である。 ・戦略的 APC 支援 ・リポジトリ登録支援システムの開発(名大と共同) ・図書館業務効率化のための環境整備 ・デジタルコンテンツの拡充	図書館(学術情 報課)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1
令和 6 年 6 月	コロナ禍を経て、図書館における学生の 利用動向が大きく変わったため、本館の 館内ゾーニングの見直しを行う。	第 231 回図書館委 員会 (R6.6.6)	全館を「多様な形態で学習する場」とし、2 階・3 階をそれぞれ「アク ティブラーニングフロア」「個別学習フロア」と明確に位置づけた上で、 最適なゾーニングを検討し、資料の移動や什器の再配置を実現する。	図書館(学術情 報課)	<input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ( )	領域 4 基準 4 - 1

※指摘事項、意見など、自己点検・評価において、改善・向上が必要と確認された事項すべてについて記載する。

※年月の欄は、機関別内部質保証体制において、確認された年月を記載する。

※関連する基準に関する分析及び判断との整合性に留意する。